

リーディング活動における背景知識の効果  
—英語を専門としない大学生に対する授業実践を中心に—  
**Effects of Background Knowledge on English Reading Activity**  
—Teaching of Reading to Japanese College Students(non-English Majors)—

藤 上 隆 治  
**Fujikami Ryuji**

**Abstract**

Some previous studies have mentioned that using background knowledge can make it easier for learners to read English stories.

Using background knowledge, the learners are able to continue reading an English story even if they encounter some words that they do not know. The author thinks that it is more important to put priority on getting the gist of the entire story than to suspend the reading activity to check such words with a dictionary every time. Also, using background knowledge makes it possible for the learners to infer the meanings of the words they do not know from the context of the story. Therefore, they can read the story completely from beginning to end without discontinuation.

This paper discusses and reveals how background knowledge will effectively work for English reading activity in a college reading class. (The class is composed of 28 non-English majors.)

The paper will touch upon three points. Firstly, the paper will show how background knowledge is important for any reading activity, according to previous studies. Secondly, it will mention how the reading activity was done in the said English reading class. The actual teaching procedures will also be explained. Finally, the data are analyzed, and the results are discussed. The results suggest that using background knowledge is an effective way to enhance students' positive attitude toward learning and reading English.

## はじめに

本稿は、英語を専門としない大学生28名（主に2、3年生が中心）が履修したリーディングの授業実践を踏まえて、リーディング活動における背景知識の効果の提示を試みるものである。

背景知識を活用する理由は、英語に対する苦手意識が少なくなり、英語がこれまでよりも読みやすくなると考えられるからである。背景知識があれば、分からない単語が文章の中に少しぐらいあっても、そこで読むことを中断せずに、飛ばして読み続けることができる。また、背景知識があるために、分からない単語の意味を文脈から推測することも可能になる。従って、学生は最後まで英語の文章を読みきることができ、「読み終えた」あるいは「最後まで英語の文章が読めた」という達成感を味わうことができる。そして、英語のみならず、取り上げるテーマに関する知識も増やせるのである。

そこで、本稿では、次の3点について述べていきたい。まず、限られた範囲ではあるが、リーディング活動に関する先行研究を概観する。次に、背景知識を活用した授業実践を報告する。最後に、授業内容の結果を分析・考察し、背景知識の効果の提示を試みる。

## I. 先行研究

リーディング活動は「聞く」「話す」「書く」のすべてに関連している重要な活動である。例えば、子供の頃、絵本を読み、絵と文字から情報を得て知識を増す。そして、小学校からあるまとまった物語や小説を読むようになる。すると、語彙、表現など言語習得のみならず、思考力や想像力といった文章を理解しながら身につける能力も獲得することができる。この点について、吉野（2003:123）は「読みの経験から認識を生み、思考へと発展し、社会生活の基礎を作り、他文化や芸術や知的分野の知識や理解を増やすことができる」と述べている。高梨・高橋（1984:28）も、リーディング活動は「活発な知的活動のプロセス」と説いている。

この知的活動の一環として、調べた限りではあるが、背景知識をリーディング活動に活用する必要性に言及している先行研究がある。例えば、高梨・高橋（*ibid.*:28）は、文字からの情報だけではなく、背景知識や推論など文字以外の情報が読解をかなり左右することから、読解は頭で行う方がはるかに多いと述べている。また、伊藤・植村・橋本・平谷（2008:103）は、「読解のプロセスは、読み手が内容に関する背景知識（内容スキーマ）と言語形式やテキスト構成に関する知識（形式スキーマ）を活性化し、内容に関する予測を立て、その予測を検証し、確認しながら、書き手の意図を読

み取る相互作用的な過程と見なされている」と説明している。

例えば、次の2つの文を読むには、言語的な知識の他に、背景知識を活用すると、理解がより深まる。

(1) Honda Motor Co. plans to lower its assumed exchange rate to 80 yen against the dollar from the current 85 yen for the second half of this fiscal year.

YOMIURI ONLINE (2010年10月28日)

(2) Because Japan did not coordinate the move with other countries, economists viewed Wednesday's intervention as a short-term fix.

*The Washington Post* 電子版 (2010年9月15日)

(1)の例は、本田技研工業株式会社が、2010年度の下半期に、想定為替レートを変更するというニュースである。背景知識があれば、想定為替レートがどういうものか、なぜ想定為替レートを変更するのか、想定為替レートの変更は企業にとって何を意味するのかといったことが分かる。単なる英文解釈よりもこのニュースをより深く理解することが可能になる。

(2)の例は、円高が進み、為替市場への介入が実行されたというニュースの一部である。ここでは、協調介入をしなかったため市場への介入は短期的な効き目しかないとの見方であるということが書かれている。為替市場への介入は協調介入のほかに単独介入があり、協調介入と単独介入の違いを理解しておかなければならない。また、市場介入の命令を下すのはどの機関なのか、また、市場介入を実行するのは日本のどの機関なのかということも内容理解を深めるにあたって必要である。

以上、限られた範囲ではあるが、先行研究を踏まえて、背景知識がリーディング活動に必要であることを指摘してきた。そこで、背景知識を利用した英語の授業を計画し、実施することにした。次の章では、その授業実践について述べることにする。

## Ⅱ. 授業実践

### 1. 事前・事後アンケートの実施

最初の授業と最後の授業で履修者のアンケートを実施した。質問項目は授業実践前も後も同じとした。授業実践前と後で、履修者が英語に対してどのように意識が変化したかを知るためである。質問はすべて選択形式(一問一答)である。なお、アンケート項目は、Jones, et al. (2009, 2010)で使用したアンケートを参考にし、一部流用した。

(1)「英語の文章を読むのは好きですか？」

- (2) 「英語の文章を読むのは楽しいですか？」
- (3) 「英語の文章を読むとき、どうやって読んで理解していますか？」
- (4) 「英語の文章を読むとき、わかりにくい箇所をとばして読むと気になりますか？」
- (5) 「英語の文章を読んでいて見たことがない単語が出てきたとき、どうすることが多いですか？」
- (6) 「英語の文章を読むと、頭の中にその場面の映像が浮かびますか？」

## 2. 指導の実際

指導の概要は次のとおりである。

- (1) 授業の種類：ある 4 年制の私立大学で2011年に実施した英語のリーディングの授業
- (2) 授業のレベル：初・中級程度
- (3) 使用テキスト：リスニング用のテキスト<sup>(1)</sup>  
あえてリーディングの授業に使用した理由は次の 5 点である。
  - (a) 各レッスンが 1 つのテーマに絞ってある。
  - (b) 各テーマは履修者にとって身近である。
  - (c) 各レッスンがコンパクトにまとまっている。
  - (d) 本授業のレベルに照らし合わせると、各テーマのリスニングのスクリプト<sup>(2)</sup>は適度な分量（1 テーマにつき、平均約345語）である。
  - (e) テキストにスクリプトが掲載されてないため、学生は、授業で配布されるスクリプトを読む際、自分で調べた情報を背景知識として活用しなくてはならない。

### 【テキストで扱っているテーマ】

Popcorn, Make-up, The Camel, Chocolate, The Escalator, Soccer, The Umbrella, Tea, The Vacuum Cleaner, The Marathon, Esperanto, The Olive, The Kangaroo, The Submarine, The Toothbrush, Sydney Opera House, Cutlery, Roller Skates, The Beard, The Pizza（全てを取り上げたかったが、小テストの実施など、授業運営上、テーマを選択せざるを得なかった。取り上げたテーマには下線を引いてある。）

- (4) 履修者数：28名（英語を専門としない大学生）
- (5) 授業実施方法：
  - (a) 事前準備（宿題）の実施：各レッスンは First Challenge（大意の理解）、Second Challenge（具体的な内容理解）、Third Challenge（要約）の 3 部で構成されている。このうち、First Challenge にある 4 つの質問を踏まえて、

各レッスンのテーマを次の授業までに調べてくる。指定の用紙は前の授業時に配布しておく。なお、ウェブサイトから情報を入手してもよい。ただし、誰もが書き込んで修正できるような情報サイトや Questions & Answers サイトからの情報収集は禁止する。それから、情報収集に当たっては、必ず本を1冊以上調べることにする。

- (b) 事前準備（宿題）の提出：書き込んだ用紙（オリジナル）とそのコピーを授業に持ってこさせる。授業開始時にオリジナルを提出させる。授業では、学生は手元に残ったコピーを参照する。
  - (c) 情報の共有：言語教育において、「学び合い」は重要であることから、調べてきたことを学生に発言させ、その情報を指導者は黒板に書いていく。
  - (d) 英文スクリプトの提示：情報を共有できたところで、スクリプトを配布する。
  - (e) 英文の読み方の指示：
    - ① 各段落がそれぞれつながって1つの物語ができていること（結束性）を提示する。
    - ② 各段落の最初の文がその段落のテーマであることを教え、そのテーマ文を拾って読むだけでも、話の概要が推測できると指示し、実施させる。
    - ③ 調べてきた情報を活用して読むように指示する。そして、分からない単語があっても読み続け、文脈ないしは背景知識から意味を推測するように指示する。
    - ④ できるだけ、英語の語順どおりに読むように指示する。日本語の語順に当てはめて英文を読みすすめると、目が前後してしまい、暗号解読のようになり、結果として内容理解が難しくなるからである。
  - (f) 英文内容の確認：

Second Challenge（具体的な内容理解）および Third Challenge（要約）を解答させる。そして、英文をできるだけ文頭から読みすすめて解説していく。その間に、Second Challenge（具体的な内容理解）および Third Challenge（要約）の答え合わせもする。
- (6) 授業案：

授業の大まかな流れは次のとおりである。

導入→宿題の回収→テーマへの導入のための発問→テーマについて具体的な情報の交換→英文の読み方に関する説明→スクリプトの配布→スクリプトの黙読→内容確認→まとめ→次回の予告と用紙の配布

なお、紙数の関係上、全ての授業案を提示できないため、本稿では実施した授業の授業案のみを提示する（資料を参照）。

### Ⅲ. アンケートの集計結果

最初の授業時および最終授業時に実施したアンケート結果を以下のとおりグラフにまとめた。

グラフ 1 は、授業実施後に「好き」「どちらかといえば好き」と答えた学生が多かったことを示している。グラフ 2 では、英語に対する意識の変化との関連性が伺える。英文を読むのが好きになったから、英文を読むことも楽しくなったと考えられる。

グラフ 3 では、授業実施前には、「気になる」「どちらかといえば気になる」を合わせて79%だったが、授業実施後には39%と、40ポイント減少した。その分、「ほとんど気にならない」が50%に増加した。

グラフ 3 に関連して、グラフ 4 では、分からない単語があるとすぐに辞書を引くケースが減少した。その代わりに、前後の文脈から推測すると答えた学生が増加した。また、一区切りついたところで辞書で調べると答えた学生も、わずかだが増加している。

さらに、文章を読むと頭の中にその場面の映像が浮かぶかどうかについても質問してみた。その結果がグラフ 5 である。映像が浮かぶと答えた学生が25%から89%と64ポイントも増加した。ほとんどの学生が文章から読み取る情景を思い浮かべながら読みすすめたということになる。

### Ⅳ. 結果の分析・考察

#### (1) グラフ 1 と 2

授業実施後に「好き」「どちらかといえば好き」と答えた学生が多かった理由として2つ考えられる。1つは、背景知識の存在である。背景知識を持ちながら、英文を読むため、この授業を履修する前よりも内容を理解できるようになったと学生が感じたからである。また、背景知識がある分、分からない単語に出くわしても読み続け、内容理解に努めるようになった。分からない単語は前後の文脈から推測するという良い結果も表れている（グラフ 4 を参照）。

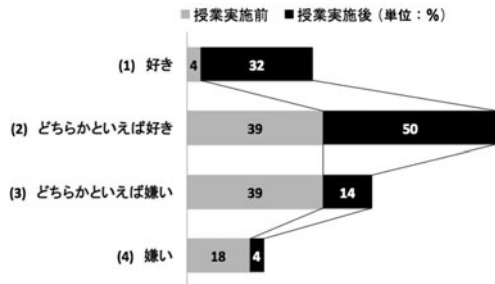
もう1つは、英文の読み方である（グラフ 6 を参照）。日本語の語順に当てはめて英語を「解説」しないように指導した。その代わりに、できるだけ前から順番に読んでいくように指導した。これにより、目があちこち移動することがないため、英文の流れに従って内容を理解できるようになったと考える。

#### (2) グラフ 3 と 4

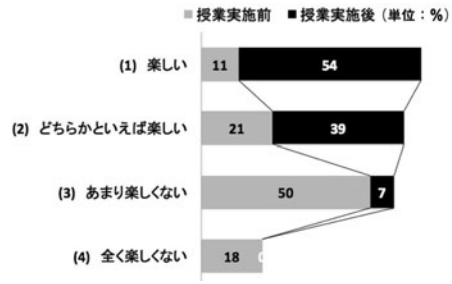
グラフ 3 と 4 の結果は、読み方や背景知識を身につけてきたことによると考えられる。



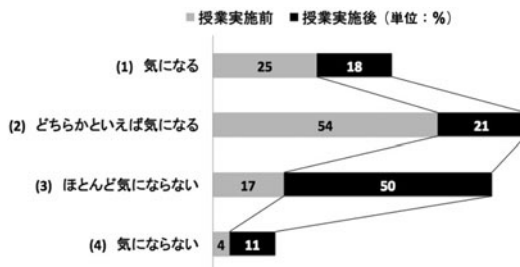
## リーディング活動における背景知識の効果



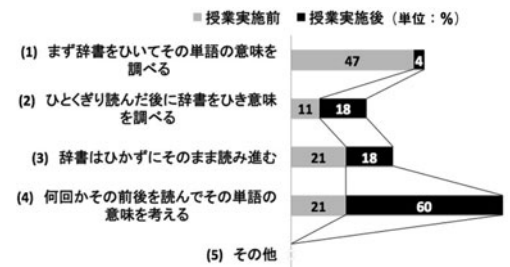
グラフ 1 英語の文章を読むのは好きですか？



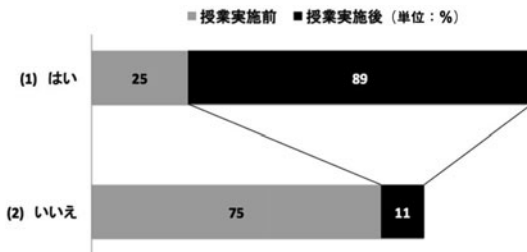
グラフ 2 英語の文章を読むのは楽しいですか？



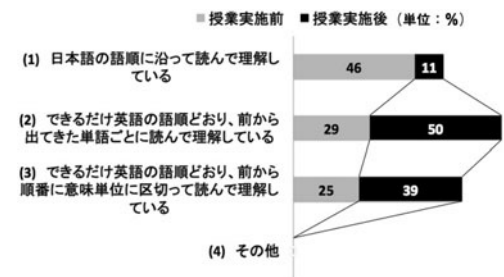
グラフ 3 英語の文章を読むとき、わかりにくい箇所はとばして読むと気になりますか？



グラフ 4 英語の文章を読んでいて、見たことがない単語が出てきたとき、どうすることが多いですか？



グラフ 5 英語の文章を読むと、頭の中にその場面の映像が浮かびますか？



グラフ 6 英語の文章を読むとき、どうやって読んで理解していますか？

(3) グラフ 5

映像が浮かぶということは、内容をある程度理解しているという証拠である。背景知識を活用していることが伺える。

(4) グラフ 6

日本語の語順ではなく、出てきた単語の順序で（あるいは意味単位で）読みすす

めていこうという姿勢が表れてきており、それが内容理解にも影響していると思われる。

## V. 背景知識の活用の効果

英語リーディング指導の1つの方法として「和訳先渡し方式」がある。この方式も指導状況によっては必要だと考える。そして、広い意味では、これも背景知識を活用したリーディングの授業と言えなくもない。しかし、指導状況が許すのであれば、情報を与えるというよりは、学生に事前に調べさせてから、英語の文章を読ませる方式の方が、学生にとっては能動的な活動であると考え。この能動的な活動に期待をかけて、今回の授業内容を考え、実施した。

その結果はすでにグラフで提示したとおりである。そして、最終授業時に実施したアンケートで学生が書いたコメントから背景知識の活用効果を伺い知ることができる。その効果を一言で言えば、「英語を学習することや英語を読むことに対する学生の意識が前向きになってきた」である。

### (a) グラフ 1 (「英語の文章を読むのは好きですか?」)

「日本語以外の言語を読んで、意味がわかると嬉しいし、同時に楽しくなる」

「意味がわかると楽しいし、嬉しい」

「内容を理解した時、英語力が多少ついてきたと感じる」

「更に好きになった」

「授業を受けていくうちに単語や組み合わせ方を知ることができた」

### (b) グラフ 2 (「英語の文章を読むのは楽しいですか?」)

#### 【背景知識の影響による楽しさ】

「調べてから読むという学習がよかった」

「調べてくることにより、内容がさらにわかりやすなり、読むことが楽しくなった」

「情報を得ることで読めてきて楽しくなった」

「知れば知るほど、英語の文章を読むのが楽しくなった」

「知らない知識を増やせるから、この授業で取り扱った内容はどれも面白く感じた」

「情報を持っているから理解できるようになった」

「情報を得ていたので内容を理解することができた」

「意味が理解できるようになったから (より頭に早く入るようになった気がする)」



「事前に調べてほしい内容が分かっているから」

「ある程度の知識をつけてから読んだので、単語の意味がわからなくても読めるようになった」

「事前に調べておくと、英文を読んで少しわからなくなっても何となく意味がわかった」

「内容が分かるからどんどん前に進める」

【読み方の影響による楽しさ】

「この授業を通じて、前から文章を読んである程度意味が取れるようになった」

「前から順に読んでいくという方法にしたら、すごく読みやすくなった」

「文法などあまり気にせず何となく読んでいき、イメージしながら読むことができた」

- (c) グラフ 3 (「英語の文章を読むとき、わかりにくい箇所はとばして読むと気になりますか?」)

「わからない単語があっても、想像すると大体思い浮かべられるから」

「わかりにくい単語などが出てきて、飛ばして読んでしまっても、案外内容が理解できることに気づいたから」

- (d) グラフ 4 (「英語の文章を読んでいて、見たことがない単語が出てきたとき、どうすることが多いですか?」)

「前後の文章で理解し、想像するようになった」

「他の単語などで、だいたいイメージできるから」

「前後の意味でわかるようになってきたから」

「前後の文で大体の意味がわかってきたから」

- (e) グラフ 5 (「英語の文章を読むと、頭の中にその場面の映像が浮かびますか?」)

「風景が頭の中に浮かんできたから」

「今まで以上に映像が浮かんできて、前後で意味が理解できるから」

「前後関係で情景がなんとなく浮かび上がってきたから」

「場面を想像して読めるようになったから」

「わからない単語があっても、状況が頭に浮かぶから、読んでいくうちに楽しくなった」

一方、全員が英語の文章を読むのが好きになったわけではない。「まだ苦手意識がなくなる。」というコメントもあったことは、背景知識を活用したリーディングの指導方法にさらに改良の余地があるという証である考える。

## おわりに

### 1. 本研究のまとめ

まず、背景知識を活用したリーディング活動について、先行研究を概観し、その効果の一端を提示した。次に、英語を専門としない学生に対するリーディングの授業を実施するにあたり、英文を読む楽しさと知識の増強を授業の到達目標として、背景知識を活用した授業案を作成し、実施した。最後に、授業実践内容を分析・考察した。背景知識を活用したリーディング活動により、学生は英文を読む楽しさを覚え始めたようであった。

### 2. 本研究の応用性

中学生や高校生や大学生のみならず、社会人が英語を学習する際にも背景知識を活用したリーディング活動は効果があると考ええる。特に、社会人の場合、自分が担当している仕事に関するものを英語で読む練習をすれば、分からない単語があっても飛ばして読み続けるであろうし、背景知識がある分、文脈からその単語の意味を想像する努力をするであろう。仕事では、リスニング活動やスピーキング活動の他にも、ビジネス文書を読むことも多くある。背景知識を活用したリーディング練習は、多くの企業で求められている英語力をつける近道かもしれない。

### 3. 今後の課題

課題もまだある。定期試験では、英語の文章の理解度を測ることに焦点を置いたため、調べてきた知識を答えてもらう質問を作ることができなかった。この点は今後改善していかななくてはならない。

また、今回のように背景知識を活用したリーディングの授業がいつも良い結果に終わるとは限らないと考える。毎学期、学生の能力や英語力、クラスサイズといった指導状況が異なるからである。今回の結果だけで、背景知識を活用したリーディングの授業が必ず成功するとはいいいきれないことは承知しており、今後更に本研究を深めていく必要があると考える次第である。

以上

## 注釈

- (1) Kiggell, T. 他 (2008) *CUBIC LISTENING: Surprise, Surprise. Second Edition.* マクミラン ランゲージハウス

(2) スクリプトの配布にあたっては、本授業にのみ使用するという条件で株式会社マクミラン ランゲージハウスと年間契約を交わした。

## 参考文献

- 伊藤敏明、植村利英子、橋本慎一、平谷泰美（2008）「第二言語習得の認知プロセスに基づいた内容中心教授法によるコミュニケーション能力の育成—教科書本文を扱う授業を通して—」『研究紀要 第21号』神奈川：川崎市総合教育センター
- 高梨庸雄、高橋正夫（1984）「「読める」とはどういうことか」『英語教育 第33巻第1号』4月号 東京：大修館書店.
- 吉野康子（2003）「英語多読のための理論と指導過程に関する一考察（第1報）—リーディング理論の推移と主体的な読み手—」『長野工業高等専門学校紀要 第37号』長野：長野工業高等専門学校.
- Jones, A., Nagasaka, T., Fujikami, R. & Yoshino, Y. (2009). A Survey of English Extensive Reading - With Special Reference to University Students' Positive Attitude. *Jissen Women's University FLC Journal*, 4.
- (2010) . A Practice of English Extensive Reading - With Special Reference to Motivational Factors. 『実践女子大学文学部紀要第52集』東京：実践女子大学.

## 引用ウェブサイト

- The Washington Post* 電子版 （2010年9月15日）
- YOMIURI ONLINE （2010年10月28日）

## 資料 授業案の例

## Unit 1 Popcorn

過程	学習目標・活動	内容	留意点
導入 7分	出欠を確認し、あいさつをする		
2分	宿題(事前調査)を回収する		
展開 (1) 22分	テーマへの導入として学生に popcorn について発問する。	(1) popcorn といえば何を思い出すか？ (2) どんな時に popcorn を食べるか？ (3) popcorn を作ったことがあるか？ (4) 何味が好きか？	自発的に答えが出てこなかったら、教室を歩きながら個別に聞いていく。そうすることによって、学生の間に学び合うという雰囲気を作り出すことが可能になる。  答えを聞いた後に、popcorn に関する指導者の体験を述べても良い（今回は、popcorn popper や鍋で作った思い出など）。体験を述べることで、当該テーマが学生にとって身近なものになる。
	popcorn について具体的な内容に入る。	First Challenge にある4つの質問を踏まえ、話の流れを考えながら、学生に発問する。 (1) For corn to “pop,” how much water must it contain? (2) Who were the first people to pop corn? (3) When did people start popping corn? (4) How did people in the Caribbean islands use popcorn?	指導者もあらかじめ popcorn について調べておく。  指導者はあらかじめ内容を知っているので、できるだけ内容に沿った形で学生に内容について考え、述べさせる。  学生同士の「学び合い」を生むように、(1) 出てきた答えを黒板に書く。 (2) 出てきた答えと同様の答えを調べてきたか学生に挙手させる。 (3) 他の答えを調べてきた学生がいるかどうか問いかける。  学生からの自発的な発言が少なかった場合、指導者は、学生から回収した宿題に目を通し、「こないいいことを調べている学生がいる」と紹介する。
展開 (2) 5分	英文の読み方を指導する。	スクリプトを配布する前に、英文の読み方を指導する。	【毎時以下のことを説明し、学生に刷り込む。説明に必要な時間は授業概数が進むにつれて短くなる。】 1. 英文および英語の文章構造について説明する。 (1) 各段落の第1文(ないしは第2文まで)がその段落のテーマであることを教える。その文だけ拾って読んでいけば、内容を大雑把に掴むことができることを教え、英文を読むことに対する学生の苦手意識を削ぐ。

リーディング活動における背景知識の効果

			<p>(2)各段落が必ず結束し合っていることを教える。</p> <p>(3)英語は言葉が出てきた順に展開していくことを教える。例えば、 Do you know why corn pops? ならば、「あなた」→「あなたがどうしたって?」→「知ってる」→「知ってるって何を?」→「何をもって、なぜなのかっていうことさ」→「なぜなのかって?」→「とうもろこしがさ」→「とうもろこしがどうしたの?」→「弾けるだよ」。つまり、「それで、それで。それからどうなるのか」と、知りたいことが順番に出てくる。これを教えると、話の筋を追って読みやすくなる。</p> <p>2. 読み方について説明する。</p> <p>(1)できるだけ語順通りに読み進める。</p> <p>(2)できれば意味単位で区切って読み進める。ただし、意味単位で区切れるようになるまでは、1語ずつ前から読み進めても構わないと学生に伝える。</p> <p>(3)分からない単語があっても、前後関係あるいは背景知識から推測するか、堂々と無視してもよいと指示する(まずは全体的なことを把握することが先決だからである)。</p>
展開 (3) 2分	スクリプトを配布する。		
展開 (4) 10分	スクリプトを黙読させる。	10分程度の時間を与えて、スクリプトを読ませる。	
展開 (5) 5分	Second Challenge (具体的な内容理解)を各自解答させる。	5分程度の時間を与え、Second Challenge (具体的な内容理解)を解答させる。	<p>1. Second Challenge (具体的な内容理解)を各自解答させる。</p> <p>2. 解答後、隣の人と答え合わせをさせる。(2～3分程度)</p>
展開 (6) 18分	スクリプトの内容確認をする		<p>1. <u>英文をできるだけ文頭から読みすすめて解説</u>していく。学生に対して、文頭から読み進めても内容を伝えることができる点に気づかせる。</p>

			<p>2. 内容を確認しながら、調べてきたことが背景知識として活かされていることを意識させる（例えば、「ほら、ここにも調べてきたことが生きている。だから、意味が分からない単語があっても、気にせずに読み進めることができる。あるいは、文脈から想像できるというわけです。背景知識が大切なことがこれからどんどん分かってきます」）。</p> <p>3. 語彙・語句の指導および発音指導も適宜実施する。 （例：トウモロコシの意味では、corn は不可算名詞である。two ears of corn と数える。ear は麦の「穂」。足にできる魚の目の意味では、corn は可算名詞である。）</p>
展開 (7) 3分	Second Challenge の 答え合わせをする	内容確認後、答えを伝える。	授業の進め方次第では、「展開(6)」の中で答え合わせをすることも可能である。
展開 (8) 8分	Third Challenge (要 約) を解答させる		<p>穴埋め問題である。リスニングのテキストなので、本来ならば、書き取った言葉を書き入れる。スクリプトから探して書き入れさせる。</p> <p>教室を見回ってどのように回答しているかを確認する。</p> <p>適語を探すのが難しい学生に対しては、日本語で答えさせることも可能。ポイントは、内容を理解できているかどうかなので、このような学生に対しては無理強いしない。</p>
まとめ 5分	本時のまとめをする ／質疑応答する		
次回 の 予告 2分	次回の予告をする／ 調査用シートを配布 する		
あい さつ 1分	授業終了の挨拶		